

日南満喫の旅 (2日目 観光の部)

日南市文化センター



宮崎県では最も早い昭和 37 年に多目的文化ホールとして開館した。丹下健三研究室による設計で、日南海岸の波状岩をデザインした傾斜面ばかりのコンクリート打放し仕上げ建築だったが、今現在大規模な改修工事が内外とも行われ、建築当初の面影は形状だけになった。

上部写真：現在の文化センター

下部写真：建設は改修以前の文化センター



鵜戸神宮



日南市宮浦地区、鵜戸崎と呼ばれる岬に鵜戸神宮はある。地元では親しみを込めて「鵜戸さん」と通称し、人々の信仰を集める。規模、知名度ともに宮崎県南では屈指の神社で、特に海岸の断崖の海蝕洞の中に本殿が建つという特異さがよく知られ、日南海岸の観光地のひとつとして訪れる人も多い。正月には海からの初日の出が見られることもあって近隣から多くの初詣客を集めている。

また、鵜戸神宮は日本神話に語られる山幸彦・海幸彦の伝説の舞台となった場所として知られる。

飫肥城下町



飫肥城は古くは「飫肥院」の跡とも云われているが、何時頃創建されたかは明らかでない。長禄二年(1458年)島津の族将「新納忠統」を志布志城から飫肥城へ移し、伊東方の押へにしているのもそれ以前の築城と考えられている。

文明16年(1484年)伊東祐国(六代佐土原藩主)が飫肥城攻防初戦をはじめから、天正15年(1587年)伊東祐兵(十九代飫肥藩初代)が豊臣秀吉の九州征

伐の功により朱印によって飫肥城へ入城するまで約百年の我が国における最長攻防戦が行われたのである。以来、約300年伊東藩の居城であった。